

# 書窓

## Shoso

No.453

2023.2

太子町立図書館 編集発行

〒671-1561  
兵庫県揖保郡太子町鵜  
1310 番地 7

Tel (079)277-1580  
Fax(079)277-5684

### 子どもの本だな 111

このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

#### ぼくにげちゃうよ

マーガレット・W・ブラウン ぶん  
クレメント・ハード え  
いわた みみ やく (ほるぷ出版)

ある日、こうさぎは、家を出てどこかへ行ってみたくなりました。「ぼくにげちゃうよ」こうさぎが言うと、かあさんうさぎは「おまえがにげたら、かあさんは追いかけますよ。だって、おまえは、とっても可愛いわたしのぼうやだもの」。こうさぎが魚になると、かあさんは漁師になって釣り上げ、高い山の岩になると、登山家になって登っていきます。庭のクロッカス、小鳥、ヨット…こうさぎが姿を変えてどこへ逃げても、かあさんは必ず見つけ出します。こうさぎが最後になったのは人間の子ども。かあさんも人間のお母さんになって、こうさぎを抱きしめました。

ページをくるたびモノトーンの絵と鮮やかな絵が交互に広がります。子どもたちは想像の世界でこうさぎになって、かあさんとの鬼ごっこのようなお話を楽しみ、最後に抱きしめられ大満足です。読んでもらえば3歳から。(西村)

#### 北のはてのイービク

ピーパルク・フロイゲン 作 野村 洵 訳 (岩波書店)

極北のグリーンランドに暮らす少年イービクは、父親と海へ狩りに出られることが誇らしく、大人になった気分です。ところが、父親がセイウチに襲われて命を落とし、その上、不注意でキャックを失ってしまいます。

狩りができない一家は、犬ぞり用の犬をも処分して飢えをしのがなければなりません。イービクはなんとかして家族を助けたいと思いますが、なす術はなく、みんなは飢えと寒さにやせ細っていききました。やがて、海に氷が張ると、イービクは助けを求めて旅に出ます。わずかな食料と短い槍だけを手に、ひとりで歩く氷上で出あったのは、お腹をすかせた白クマでした。

自然の中で生きるエスキモーの生活は想像を超える厳しさですが、その暮らしぶりや精神が、率直に描かれています。また、少年の家族を守りたい、強くなりたいという思いには時代を問わず共感できることでしょう。10歳くらいから楽しめます。(秋澤)

### 2月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	<del>X</del>	8	9	10	11
12	<del>X</del>	<del>X</del>	15	16	17	18
19	20	<del>X</del>	22	23	<del>X</del>	25
26	<del>X</del>	<del>X</del>				

### 3月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	<del>X</del>	8	9	10	11
12	13	<del>X</del>	15	16	17	18
19	20	<del>X</del>	<del>X</del>	23	24	25
26	27	<del>X</del>	29	30	<del>X</del>	

▶ X印は休館日

- ・ 祝日の振替休館  
2/13、2/24、3/22
- ・ 館内整理日  
2/27、3/31

※閉館時は返却ポストをご利用ください。

▶ 開館時間

- ・ 10:00~18:00
- ・ 金曜日のみ  
10:00~20:00



『動物行動学者、モモンガに怒られる』 身近な野生動物たちとの共存を全力で考えた！ 小林 朋道 著

山と溪谷社 300頁 2022年5月刊 1,750円 (請求記号) 481.7

著者(鳥取環境大学の先生)が本書でとりあげている動物は、アカネズミから始まってモモンガ、スナヤツメ、コウモリ…と私たちになじみのある動物からは少しはずれたものが多い。例えば絶滅危惧種であるスナヤツメの章。大学近くの水場は、水生動物にとって素晴らしい環境だったが、ある日、河川の改修工事を行うという看板が立っていた。先生は工事担当の鳥取市にかけあい、現在の水場を残すのが無理なら自分のデザインした水場を近くに作ることを約束してもらった。工事前に採取しておいた動物たちを新しい水場に放したところ、貴重なスナヤツメなどの生息地になった。これをきっかけに、水生動物がいなかった他の場所にもスナヤツメが生き延びていける水場を創り出すなど、野生動物との共存へのひとつの成果となった。

野生動物との共存は、先生の究極の目的である。シカやタヌキ、クマなど野生動物の習性を知り、ヒトが少し我慢することでもうまく共存できれば、多様な野生動物を守り、ひいては自然環境の保全につながる。自然の生態系の維持＝ヒト生命維持装置であると、先生は様々な動物を登場させながら何度も語っている。

モモンガの章では、母子モモンガとの緊迫した瞬間をユーモラスに語り、モモンガへの興味を誘う。人々に、愛くるしいモモンガを守ろうという気持ちをもってもらうため「その野生動物を守ることによって、利益が得られる」方法を色々と試す。モモンガ・エコツアー、モモンガグッズの作成と販売、公民館横に作られた「モモンガの湯」…。地域に経済的、精神的利益をもたらすヒトと野生動物との共存の形態の好例である。

著者の、穏やかでちよつととぼけた感じの人柄が好ましく、加えて野生動物への深い愛情と学術的な思考も味わえる著作である。同著者の『先生、巨大コウモリが廊下を飛んでいます!』(築地書館)などの「先生!シリーズ」は、大学内で起こった「事件」をユーモアあふれる文章で綴った人気のシリーズで、現在18冊目まで刊行されている。(池田)

2月	3月	2・3月の移動図書館 (いずれも木曜日です)						<p>&lt;お知らせ&gt; 毎週土曜日に 「おはなしの時間」 を開いています。 ↓ 4歳～小学2年生 11:00～11:30 ↓ 小学3年生～中学3年生 11:30～12:00 2月のおはなしは、「鳥のみじい」「ぶよのいっとき」「梅の木村のおならじいさん」などを予定しています。詳しくは、館内掲示または図書館HPをご覧ください。</p>
9日	9日	塚森 地域内 10:30～ 10:50	沖代 コミュニティー センター 11:00～ 11:20	福地(三反長) 地域内 14:30～ 14:50	米田 公会堂 15:00～ 15:20	竹広南 公民館 15:30～ 15:50		
16日	16日			原池団地 公民館 15:00～ 15:20	山田 掲示板前 15:30～ 15:50	原 太田東地区 農村交流 センター 16:00～16:20		
23日	23日	広坂 公民館 10:30～ 10:50	上太田 公民館 11:00～ 11:20		太子 ニュータウン 公民館 15:30～ 15:50	吉福 公民館 16:00～ 16:20		

地下水

同じ世代、育った地域も同じ人でも、言葉のアクセントが自分のものと違っている。職場や友だちの間で、そんな言葉を耳にする。話題の種になる。私の「虹」は友人には「2時」らしい。多くの人の「法蓮草」は「蓮」が強いが、私は「法」だ。自分の「白菜」でないものが耳に入ってくると「歯臭い」と変換してしまう。家で耳にする言葉を取り込んでいくものと思っていたが、家族の言葉でも「ちがう!」と今更ながら驚くことがある。

おはなしを語ったり、絵本を読んだりするとき、「さっきの言葉、変なの」と感じる子がいるだろうと思う。『ラチとらいおん』を読んで、「らいおん」を訂正されたことがある。耳慣れない「らいおん」が気になり、集中できなかったかもしれない。『しんせつなともだち』の「はくさい」も気を遣う。ただ、意識しすぎるとなにか正しいのかわからずつかえてしまうので、練習したまま、自分のアクセントで進めることにしている。

先日、『ほね、ほね、きょうりゅうのほね』の練習中、「…あしのほね、ろっこつ、は、…」にきたとき、ふと「歯」が、普段の生活で口にするときは「はあ」になることに気づいた。血、戸、手、木、毛…一字の言葉は大抵、子音を伸ばしている。なんだかすこいことに気づいたようで、一人うきうきしている。(竹内)